

# 大学の世界展開力強化事業(2020年度選定) 東京農業大学 取組概要

## 【事業の名称】(選定年度2020年度・(タイプA②))

アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム

## 【交流推進事業の概要】

本学がアフリカにおいて取り組む栄養改善の研究プロジェクトをベースに、アフリカの農学系大学との連携を強化し、双方向の学生交流を活性化させる。これにより、本学を含む日本人学生にアフリカをフィールドとした実践的な教育プログラムの機会を与えると同時に、アフリカの学生が日本で最新の農学・栄養学を学び、国や地域を超え学生間で議論する機会を創出し、アフリカの食と栄養改善に貢献する次世代リーダーを育成する。



## 【交流プログラムの概要】

アフリカ協定校への本学学生の派遣:長期交換留学(半年～1年間)、短期派遣プログラム(2～3週間)

アフリカ協定校から本学への受入:長期交換留学(半年～1年間)、短期受入プログラム(ISS、CIEPを核として約2週間)

## 【本事業で養成する人材像】

日本人学生は、卒業後、青年海外協力隊への参画や大学院への進学など現場経験に根差した専門性の強化が期待され、将来的に国際協力機構(JICA)や国際NGO事業の専門家、国際熱帯農業研究所(IITA)、Bioversity、国際農林水産業研究センターなどの国際研究機関で活躍できる国際研究者の育成を目指す。アフリカ人学生には、日本で先進的な農学や栄養学を学ぶ機会を提供することで、アフリカ地域の食と栄養問題解決に向けた取り組みの中核となる人材を育成する。

## 【本事業の特徴】

アフリカにおける栄養問題の解決には、栄養学という自然科学、健康科学のみならず、農学、社会科学といった多岐にわたる学問分野が必要であり、文理融合が求められる課題である。本事業では、本学が2001年より毎年主催している「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」をこれらの活動の発表の場として活用する計画であり、本学およびアフリカ協定校の学生が、「栄養」に関する課題について、世界の農学系大学生と議論し問題解決能力を高める場とする計画である。

## 【交流予定人数】

		2020	2021	2022	2023	2024
派遣	実際に渡航する学生	10	17	17	17	17
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	34	34	34	34
受入	実際に渡航する学生	10	11	11	11	11
	自国にて国際教育・交流プログラムをオンラインで受講する学生	10	22	22	22	22

# 1. 取組内容の進捗状況(令和2年度)

【東京農業大学】

【事業の名称】(採択年度 令和2年度 タイプA)  
アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム

## ■ 交流プログラムの実施状況



〈African Cafeの様子〉



〈Online Exchangeの様子〉



〈少人数でのディスカッション〉

## 交流プログラムにおける学生のモビリティ

### ○ 日本人学生の派遣

新型コロナウイルス感染症の影響により渡航を伴う派遣は実施していない。本学学生を対象としたオンラインプログラムとして、アフリカが抱える課題や魅力を学びアフリカへの理解を深めるAfrican Caféを計3回、各協定校の学生とオンラインで交流するOnline Exchangeを計2回開催し、African Caféは延べ168名、Online Exchangeは延べ194名(うち農大生20名)の学生が参加した。

### ○ 外国人留学生の受入

日本人学生の派遣同様、渡航を伴う受入は実施していない。オンラインプログラムとして、事業説明会、本学学生とのOnline Exchangeを計2回実施し、SUA学生72名、JKUAT学生102名が参加した。なお、各イベントにはSUA(タンザニア ソコネ農業大学)、JKUAT(ケニア ジョモケニヤッタ農工大学)それぞれから300名以上の学生の事前登録があり、本事業への関心の高さを確認することができた。

	R2			
	計画		実績	
	SUA	JKUAT	SUA	JKUAT
学生の派遣	5	5	0	0
学生の受入	5	5	0	0

## ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

両協定校とも、他大学との単位互換制度や他大で取得した単位の認定制度を有していないことが分かったため、本学で取得する単位を各協定校で認定する仕組みの構築について意見交換を重ねた。その結果、JKUATでは本学への留学を、卒業要件に含まれる「インターンシップ」として認定することが決定した。SUAにおいても先方学内での協議が継続されている。また、受入・派遣に係る諸条件については、その結果を取りまとめ3月にJKUATとStudent Exchange Agreementを締結し、SUAとは2021年7月までの締結に向けて最終調整を行っている。

## ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

両協定校が長期派遣参加学生を選出する際に活用できるよう、本学での英語専門科目リストおよび受入研究室リストを整備・提供した。各校の成績を日本学生支援機構方式GPA計算方法で換算する方法を説明し、本学の受入基準を満たす学生の選出を開始した。また、本学から2021年度後学期から派遣を予定している学生についても選考を終了し、各校へのノミネーション(SUA 2名、JKUAT1名)を行った。



〈本事業ウェブサイト〉

## ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況 情報の公開、成果の普及

1. 本学の世界展開力強化事業ホームページにて、イベントの実施報告やワークショップの応募要項などを発信している。
  - <http://tenkai.nodai.ac.jp>
2. Twitterにて、イベントの案内や実施報告などを発信している。
  - <https://twitter.com/ForNodai>
3. デジタルパンフレット
  - [http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/8016/1837/6857/PDF\\_.pdf](http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/8016/1837/6857/PDF_.pdf) (日本語版)
  - [http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/2016/1837/6846/PDF\\_.pdf](http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/2016/1837/6846/PDF_.pdf) (英語版)

## ■ グッドプラクティス等

交流実績としてカウントはできなかったが、キックオフシンポジウムには計179名(登録者は農大84名、SUA73名、JKUAT54名)、Online Exchangeには延べ194名(うち本学20名、SUA72名、JKUAT102名)もの学生の参加を得ることができた。どこからでも参加できるというオンラインの利点を活かし、幅広い層の学生の参画を得ることができたことは大きな成果である。

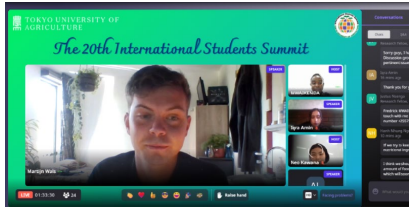
## 2. 取組内容の進捗状況(令和3年度)

【東京農業大学】

### 【事業の名称】(令和2年度 タイプA)

アフリカの栄養改善活動をフィールドとする協働実践型教育プログラム

#### ■ 交流プログラムの実施状況



〈 食と農と環境を考える世界学生サミット 〉



〈課題解決力醸成ワークショップでの発表〉



〈Project Cycle Management研修の様子〉

#### 交流プログラムにおける学生のモビリティ

※SUA:ソコイネ農業大学(タンザニア)、JKUAT:ジョモケニヤッタ農工大学(ケニア)

##### ○ 日本人学生の派遣

実渡航を伴う派遣はできなかったが、9月に「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」をオンラインで開催、本学からは発表者または座長として22名(うち日本人7名)が参加し多様なバックグラウンドの学生と協働し討論を行った。また、アフリカの諸課題を理解し解決力を身につけることを目的に、前学期(5-7月)にビジネスフレームワークを用いた課題解決力ワークショップ(日本語、全5回)を、後学期(3月)にロジカルフレームワークを用いたProject Cycle Management研修(英語、計画立案編3日間、モニタリング・評価編3日間)を実施し、それぞれ23名、18名、17名の本学学生(うち日本人33名)が受講した。さらに後学期(1月)には、日本の気候・自然環境とそれらが農業に与える影響や農協についてSUA、JKUAT学生と学ぶOnline Course “Overview and Organization of Japan Agriculture”を開催し本学学生17名(うち日本人1名)が参加した。

##### ○ 外国人留学生の受入

実渡航を伴う受入はできなかったが、ISSにSUA5名、JKUAT6名の学生が参加し、またOnline Course “Overview and Organization of Japan Agriculture”にSUA17名、JKUAT12名が参加し、本学教員のファシリテーションによりリアルタイムで本学学生と討論し理解を深めた。なおISS、Online Course、PCM研修には、それぞれ1名づつ本学在籍中SUA出身学生が参加した。

	R3	
	計画	実績
学生の派遣	51	41
学生の受入	33	43

#### ■ 質の保証を伴った大学間交流の枠組形成に向けた取組

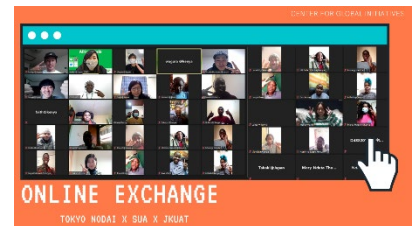
前年度から引き続きSUAと学生の受入・派遣に係る諸条件を協議し、9月にStudent Exchange Agreementを締結した。(JKUATとは令和3年3月に締結済)

各参画校の責任者及び担当者が出席する合同モニタリング会議を3月に実施、令和3年度実績及び令和4年度計画についての確認・意見交換を行った。また、これまで1年間事業実施してきた中で確認された課題を共有し議論を行った。関係者が一同に会し、事業についての認識を共有する場を設けたことで、今後の事業進捗の円滑化が期待される。

#### ■ 外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

本学学生のアフリカ諸国への関心を喚起することを目的としたAfrican Caféを計3回(4、6、11月)、アフリカ協定校学生とのOnline Exchangeを計3回(5、6、7月)実施した。African Café参加者は延べ81名(農大生のみ)、Online Exchangeは延べ174名(農大41、SUA26、JKUAT80)の参加があった。

これまでの活動を通じ、日本留学に関心を持つ学生が多いことが分かったため、各協定校を通じ希望者を募りオンデマンド初級日本語講座(修了に必要な累計学習時間数約80時間)を実施したところ、8名が修了し修了証を取得した。



〈 Online Exchangeの様子 〉

#### ■ 事業の実施に伴う大学の国際化の状況情報の公開、成果の普及

- 2月にオンライン公開シンポジウムTokyo NODAI as the Center of Excellence for Research and Education on Food, Agriculture and Environment in Africaを開催し、本学のアフリカ諸国との連携実績を紹介、未来の展望についてディスカッションを行った(2月)。アフリカ5カ国を含む世界24カ国・地域から119名が参加した。
- パンフレット(日英版に加えスワヒリ語版も作成)

- [http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/8016/1837/6857/PDF\\_.pdf](http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/8016/1837/6857/PDF_.pdf) (日本語版)
- [http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/2016/1837/6846/PDF\\_.pdf](http://tenkai.nodai.ac.jp/application/files/2016/1837/6846/PDF_.pdf) (英語版)
- [https://www.nodai.ac.jp/application/files/1216/5544/9046/Swahili\\_version\\_to\\_browse.pdf](https://www.nodai.ac.jp/application/files/1216/5544/9046/Swahili_version_to_browse.pdf) (スワヒリ語版)

#### ■ グッドプラクティス等

「食と農と環境を考える世界学生サミット(ISS)」には、24ヶ国・地域26大学55名の発表者が参加し過去最大規模となった。またISS開期中は世界30カ国・地域から延べ1,123人が視聴し、全世界から参加を得ることができた。日本で初めて国連食糧農業機関(FAO)により世界農業遺産に認定された石川県能登地域において、農業や観光業の振興に関する知識やノウハウを実践的に学ぶインターンシップを構築するため、令和4年3月に石川県と「世界農業遺産を通じた国際貢献に関する連携協定」を締結し、令和4年9月の短期受入に向け石川県と連携し準備を進めている。